

事故を防ぐ！ 洗剤・洗淨剤の使い方

くらしの中で使い慣れている身近な洗剤・洗淨剤でも、時に大きな事故がおきることがあります。その多くは誤った使い方や保管方法などが原因です。今回は身近な洗剤について取り上げました。

I 事件事例 洗剤・洗淨剤に関して、起きた事件事例を見てみましょう。

1. 有害ガスの発生

塩素系洗淨剤と酸性洗淨剤が混ざり、刺激性の強い塩素ガスが発生
清掃員が塩素系洗淨剤と酸性洗淨剤を混ぜてしまい、発生したガスを吸い込んで病院に搬送

2. 詰め替えた容器が破裂

アルカリ性洗淨剤をアルミ缶（コーヒー缶など）に移し替えたことから、洗剤と缶が化学反応を起こし、水素ガスが発生して缶が破裂
洗剤を移し替えて持ち運びをしていた人が、破裂により内容液が皮膚に付着し、化学やけど

3. パック型液体洗剤の誤飲・誤使用

幼児が洗剤を口に入れてしまった
認知症の高齢者が食品と間違えて食べた
子どもが遊んでいたところ、フィルムが破れ、洗剤が目に入った



4. 香りによる体調不良や不快感（いわゆる香害）

柔軟剤、洗剤などに含まれる香料（化学物質）により、頭痛、めまいなどの健康被害

II もし、事故が起きたら… それでも、事故が起こってしまったら、冷静に対処をしましょう。

1. 「混ぜるな危険」の洗剤を混ぜた 換気をしてすぐに避難

2. 誤飲・吸入 水で口をすすぐ。その後、水や牛乳をコップ1,2杯飲む。
絶対に無理やり吐かせない。
受診の必要性や応急手当がわからない時は中毒110番に相談。
つくば中毒110番 029-852-9999 (24時間対応)

3. 皮膚に付着 すぐに大量の水で洗い流し、刺激が続く場合は医師の診察を受ける

4. 目に入った こすらず、すぐに水で15分以上洗い流し、異常があれば眼科を受診
※コンタクトレンズの場合は、無理に外さず、まず水で洗浄し、外せるようなら外して洗眼、難しいようならすぐ眼科を受診

